

秋田県立大館鳳鳴高等学校 中期ビジョン（5か年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

[現状]

本校は令和5年に創立125年となる県内屈指の伝統校である。文武両道を教育方針として掲げ、県内はもとより国内外において各界のリーダーとして活躍する人材を輩出している。地域には、本校の教育活動に理解を示し協力的な保護者や同窓生も多く、地域から厚い信頼を得るとともに、大きな期待も寄せられている。

令和元年度・2年度の卒業生の国公立大学合格者は、両年度とも118名である。東北大学合格者は2名・5名、医学部医学科合格者は6名・4名で推移している。また、平成15年度から15年間SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、現在もその目的を継続し、科学的リテラシーの向上と国際性の育成に取り組んでいる。さらに、平成23年3月に野球部が念願の甲子園出場を果たすなど運動部や文化部等の活動も盛んで、地域から大きな期待が寄せられ、地域の元気を創出する役割も担っている。しかしながら、かつては1学年8学級の時代が長かったものの、少子化の影響もあって、現在は1学年6学級となっている。

[課題]

近年は少子化による高校受検者数の減少から低い志願倍率が続いており、その結果、学習意欲や進路意識の差が大きくなっている。今後、東大、京大や医学部等の難関大学も含めた進路希望の実現を図り地域の期待に応えるためには、学力差や多様な進路希望に応える取組の充実を図ることが大きな課題である。

具体的には、学力差や多様な進路希望に応じた指導の個別化を図り、個に応じた指導方法や指導体制を整え充実させること。また、これまで、将来の科学技術系人材の育成を目指して取り組んできたSSHにおいて、これまで蓄積してきたノウハウを指導に生かし発展させるカリキュラムを構築するなどして、更なる進学実績の充実を図ることも課題と考えている。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

少子化により、本校への通学圏内である大館北秋・鹿角地区の中学校卒業予定者数は減少が続いている。第六次秋田県高等学校総合整備計画により、大館地区の統合計画は完了したが、少子化による生徒数減少の影響は多方面に現れると思われる。

しかしながら、地域の拠点校として本校に寄せられている期待は大きく変わるものではなく、むしろ、グローバル化していく社会に積極的に対応できる人材育成、地域や日本、世界で活躍できる人材育成への期待は高まるものと思われる。そうした本校の役割、使命を考えると、1学年6学級体制を維持しながら教育活動の質的な充実を図り、地域の期待に応える取組を一層強化しなければならないと考える。

③ 目指す生徒像及び学校像

[目指す生徒像]

「次代を切り拓く高い志と強い精神力、積極的な行動力を持った鳳鳴生」

高い志をもった生徒を育成することが本校に課せられた使命である。社会の一員としての自覚のもとに、地域や日本を自分が支えるという気概をもたせ、グローバルな視点で多様な見方・考え方のできる生徒を育てたい。そのために、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立に取り組み、文武両道を目指しながら、生徒の個性や能力を伸ばす教育活動を推進していく。また、教育活動全体をとおして生徒の社会的自立を目指すとともに、社会を生き抜く力や豊かな心、生涯にわたり学び続ける意欲を育て、社会の変化に対応しながら、創造、思考、判断、表現することができる生徒の育成を目指す。

[目指す学校像]

伝統校として脈々と受け継がれてきた校風や学校行事等を引き継ぎながら、時代の変化に柔軟に対応した特色ある教育活動を展開するとともに、教育成果を保護者や同窓会、地域社会に問い、評価を受け、更なる改革改善を図る自主的・自律的な学校を目指す。

また、本校のもつ教育力を地域に公開し、地域の文化活動の活性化に寄与するとともに、地域の拠点校として近隣の中学校及び高校との連携を図り、地域の教育力の向上に努める。

④ 5年間で達成を目指す具体的目標

項 目	目 標	R 1	R 2	R 3	R 4
大学入学共通テスト全国平均点以上の科目	全16科目	—	1 1		
国公立大学合格率(合格者数/大入共テ受験者数)	5 5 % 以上	56.0%	62.1%		
医学部医学科進学者数	5 名 以上	6	4		
難関大学(東大、京大、東北大等)進学者数	1 5 名 以上	2	8		
進路希望達成率[前年(2年次)1 1 月比]	7 0 % 以上	59.6%	63.0%		
卒業までのCEFR B1(英検2級)以上	1 0 0 名	—	8 0		

具体的な取組等

①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を实践する。そのために

- ・学力向上を目指して、各教科の特性を生かし、適切な学習場面に応じた効果的なアウトプット活動を推進する。
- ・ICT機器を積極的に活用し、ICTを取り入れた指導方法や指導体制の工夫改善を図る。
- ・地域に開かれた学校を目指し、公開授業や授業研修会を開催する。
- ・先進校視察や予備校研修に参加して、成果を共有し還元する。

②高い志をもった自立した学習者を育てる。そのために

- ・望ましい勤労観・職業観の育成とともに、学習への動機付けを強化することを目的として、企業や大学、研究所等の訪問、先進校への派遣、学部・学科研究等を行う。
- ・ICTなどを活用し、外国の高校との交流を行うなど、質の高い国際教育の推進を図り、世界にはばたこうとする志を育てる。
- ・同窓会員や地域のリーダーを招聘しての講演会を開催し、社会における役割の自覚を促し、積極的に社会貢献しようとする志を育てる。

③進路希望の実現を図る。そのために

- ・「難関大進学プロジェクト」や「医学部進学プロジェクト」などの進学希望達成に向けたプロジェクトの検証を行い、更なる充実を図る。
- ・県内外の進学校との連携をとおして教員の進路指導力の向上を図る。
- ・生徒の進路希望実現の取組を組織化し、指導の均一化と質的向上を目指す。
- ・保護者や同窓会、地域の教育力の積極的な活用を図り、幅広い教養と多様な見方・考え方を育てる。

④学校教育活動の公開を積極的に進めながら適切な学校評価を行い、説明責任を果たす。

そのために

- ・地域を対象にした公開授業や、本校の教育方針、教育活動についての説明会を実施し、教科指導、生徒の実態等についての理解を得る。
- ・各教科単位で高校入試の分析を行い、中学校と協力して報告会を開催する。
- ・学校行事を地域に公開し、教育活動に対する理解の促進に努める。
- ・学校評価を適時適切に行い、教育活動・教育環境の改善を図る。